

令和6（2024）年2月5日

文化庁国際ラウンドテーブル：

「分断された世界におけるコラボレーションの可能性」

次世代のアーティスト、キュレーター、研究者等の国際ネットワーク構築に向けて

この度、文化庁は、「文化庁国際ラウンドテーブル：分断された世界におけるコラボレーションの可能性」を2024年2月16日（金）に国立新美術館（東京都港区六本木）にて開催します。本ラウンドテーブルは、アジア出身およびアジア域内で活動する次世代キュレーター等のネットワークを構築し、アーティストや研究者も巻き込みながら、中長期的に新たな協働の可能性を作り出していくための具体的なアイデアを検討することを目的としています。第一部では、片岡真実氏、キム・ソンジョン氏、皮力氏をパネリストとしてお迎えし、2000年代前半以降におこなわれた国際的な協働プロジェクトの事例紹介を通して、これからの時代の国際的なネットワークと協働について考えます。第二部では、第一部のパネリスト3名と、これからの活躍が期待されるアジアの若手キュレーター等が同じテーブルに着き、ディスカッションを行います。

本ラウンドテーブルは中長期的なプロジェクトの実現に向けた第一段階として位置付けられます。文化庁は、アジアを中心とする若手アーティスト、キュレーター、クリエイター、研究者等によるネットワークを構築／強化した上で、そのネットワークを通じて生じる相互作用の中からアートの新しい在り方を模索し、その可能性を広げていくための中長期的なプロジェクトを立ち上げることとなりました。これまでにも、アジアの国々が参加する国際的なアートプロジェクトは様々な形で行われてきました。しかしながら、グローバル社会におけるローカルリティが改めて問い直されている昨今、他とは異なっていることや、従来のアートの文脈から逸脱していることは、むしろ新しい発展に繋がる潜在的な価値として捉えられます。同じアジアの域内であっても、文化、社会、歴史、環境は様々に異なっています。最も近いが、異なる他者であるアジアの国々が互いに向き合うことで、それぞれが新しい刺激と変化を獲得することができるはずです。

中長期かつ持続的なプロジェクトを設計するため、今年度はこれまでに、世界の第一線で長年活躍されている今回のパネリスト3名とアジア出身およびアジア域内で活動する25名の若手キュレーター等が参加し、複数回にわたるオンラインでの議論を行ってきました。それらの議論を受け、今回のラウンドテーブルでは、さまざまな先行事例も参照しながら、次世代に必要なプラットフォームのあり方や具体的なプログラムの方向性について議論し、中長期的な目標や枠組みの設定に繋げていくことを目指します。

今回のラウンドテーブルは、次の20年を作っていくことを視野に入れながら、次年度以降の継続的な議論の素地を形成し、それがまた次の世代に引き継がれていくような持続的な体制作りの第一歩としたいと考えています。そして、中長期的には、若い世代を中心とするリサーチやディスカッション、展示等を組み合わせた一連のプログラムを設計し、複数年をかけてそれらを実施していく予定です。

本ラウンドテーブルは参加無料（要事前申込・先着順）です。皆さまのご参加をお待ちしております。

■プログラム概要

*予定、敬称略

文化庁国際ラウンドテーブル：「分断された世界におけるコラボレーションの可能性」

日時： 2024年2月16日（金）16:00～18:00（開場 15:45）

*終了時刻は前後する可能性があります

会場： 国立新美術館 3階 講堂（東京都港区六本木7丁目 2-22）

定員： 100名（先着申込順）

言語： 日本語・英語（日英同時通訳あり）

参加費： 無料

主催： 文化庁

※本プログラムは、同時配信はありません。後日アーカイブをウェブサイトに掲載予定です

内容：

16:00	開会
16:05-16:40	第一部：パネリストによる事例紹介 - 片岡真実（森美術館館長、国立アトリサーチセンター長） - キム・ソンジョン（アートソングェセンター アーティスティックディレクター、Real DMZ Project アーティスティックディレクター） - 皮力（大館当代美術館 アート部門長）
16:45-17:45	第二部：ラウンドテーブルディスカッション - ディスカッサント：若手キュレーター等（調整中） - アドバイザー：片岡真実、キム・ソンジョン、皮力 - モデレーター：山峰潤也（キュレーター/プロデューサー、株式会社NYAW 代表取締役）
17:45-17:58	質疑応答
18:00	閉会

申込： <https://forms.gle/eJPtw2zccFHqxe9A>



■文化庁「日本文化のグローバル展開の推進に資する「新たな価値」の発信に係る準備事業」アジアを中心とする若手アーティスト、キュレーター、クリエイター、研究者等によるネットワークを構築し、そのネットワークを通じて生じる相互作用の中からアートの新しい在り方を模索し、その可能性を広げるとともに持続的に世界に発信していくために必要な取り組みを実施します。

お問い合わせ：

文化庁 令和5年度「日本文化のグローバル展開の推進に資する「新たな価値」の発信に係る準備事業」
文化庁 文化経済・国際課：荻原、成山

事務局：土井未穂、五十嵐三慧、望月麻美子、手銭和加子、大久保玲奈、小池麻紀

メール：events@amcn.art 電話：070-8490-0964

■登壇者
片岡 真実（森美術館館長、国立アトリサーチセンター長）

ニッセイ基礎研究所にて文化芸術関連の研究員、東京オペラシティアートギャラリー・チーフキュレーターを経て、2003年より森美術館勤務、現在同館館長（2020年～）、2023年に国立アトリサーチセンター長着任。2007～2009年はヘイワード・ギャラリー（ロンドン）にて、インターナショナル・キュレーターを兼務。第9回光州ビエンナーレ共同芸術監督（2012年）、第21回シドニー・ビエンナーレ芸術監督（2018年）、国際芸術祭「あいち2022」芸術監督。CIMAM（国際美術館会議）では2014～2022年に理事（うち2020～2022年は会長）。2018～2022年度は「文化庁アートプラットフォーム事業」のステアリングコミッティー「日本現代アート委員会」座長。その他、文化審議会文化政策部会臨時委員、日本ユネスコ国内委員会委員など委員、審査員等多数。



©伊藤彰紀

キム・ソンジョン（アートソングセンター アーティスティックディレクター、Real DMZ Project アーティスティックディレクター）

アートソングセンター（ソウル）で、チーフキュレーター/副ディレクター（1993～2004年）、ディレクター（2016～2017年）を歴任後、2022年より同センターのアーティスティックディレクター。ICOM（国際博物館会議）韓国議長（2023年～）、ICOM ASPAC（International Council of Museum Asia-Pacific Alliance：国際博物館会議アジア太平洋地域連盟）委員も務めている。Asia Culture Center（ACC）のACCアーカイブ&リサーチのアーティスティックディレクター（2014～2015年）、光州ビエンナーレ財団理事長（2017～2021年）も務めた。美術館の境界を越えることを目的としたアート&リサーチプロジェクト「REAL DMZ PROJECT」のファウンダー兼アーティスティックディレクターでもあり、2011年以降、アートの批評的レンズを通してDMZという目に見える/見えない境界線を探索し、韓国の分断に対する意識を高めることに取り組んでいる。アートソングセンターでは、2007年から、マーティン・クリード、キム・ボム、ヤン・ヘギュ、イ・ブル、キム・サンファン、アブラハム・クルズヴィエイガス、ムン・キョンウォン&チョン・ジュンホとWorld Weather Networkによる「Seoul Weather station」展などをキュレーション。2023年にはハイディ・ブッハーの展覧会を共同キュレーションした。


皮力（大館当代美術館 アート部門長）

大館当代美術館（香港）のアート部門長。元・M+（香港）のシグ・シニアキュレーター兼学芸部長。中央美術学院のアートアドミニストレーション学科の副エグゼクティブディレクター（2001～12年）、ユニバーサル・スタジオ・北京の共同設立者兼ディレクター（2005～12年）、Boers-Li Gallery（北京）の共同設立者兼ディレクターも務めた。

キュレーションした展覧会に「Right Is Wrong: Four Decades of Chinese Art in M+ Sigg Collection」（2014年、Bildmuseet、スウェーデン・ウメオ/2015年、Whitworth Gallery、マンチェスター）、「Moist: Asia-Pacific Media Art」（2002年、Beijing Millennium Monument Art Museum）、「Fantasy Zone」（2001年、Art Museum of DongA Daily /2002年、Beijing Modern Art Center）、「Image Is Power」（2002年、He Xiangning Art Museum、深圳）などがある。2002年に東京オペラシティアートギャラリーで開催された「アンダー・コンストラクション」、2006年に開催された「Media City Seoul」、上海ビエンナーレ（2002年）、「Allôrs, la Chine」（2003年、ボンビドゥー・センター）のキュレーターも務めた。主な著書に『From Action to Concept』（2015年）、『Farewell to Moralism』（2018年）、『M+ Sigg Collection: Four Decades of Chinese Art』（2021年）、『Madame Song: A Life in Art and Fashion』（2023年）がある。中央美術学院で美術史の博士号を取得。


山峰潤也（キュレーター/プロデューサー、株式会社 NYAW 代表取締役）

東京都写真美術館、金沢21世紀美術館、水戸芸術館現代美術センターにて、キュレーターとして勤務したのち、ANB Tokyoの設立とディレクションを手掛ける。その後、文化/アート関連事業の企画やコンサルを行う株式会社 NYAW を設立。

主な展覧会に、「ハロー・ワールド ポスト・ヒューマン時代に向けて」、「霧の抵抗 中谷芙二子」（水戸芸術館）や「The world began without the human race and it will end without it.」（国立台湾美術館）など。また、avexが主催するアートフェスティバル「Meet Your Art Festival "NEW SOIL"」、文化庁とサマーソニックの共同プロジェクト Music Loves Art in Summer Sonic 2022、森山未来と共同キュレーションした KOBÉ Re:Public Art Project などのほか、雑誌やテレビなどのアート番組や特集の監修なども行う。また執筆、講演、審査委員など多数。2015年度文科省学芸員等在外派遣研修員。



©Mayumi Hosokura